

さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐろ

MEGURo

—めぐろ区報—

10
15

令和3年(2021年)
No.2120



新型コロナウイルス
感染症対策
リバウンドを
防ごう!

外出
少人数で行動し、混雑している
場所・時間に避ける



帰省・旅行・出張
基本的な感染症防止策
を徹底



飲食店など
21:00以降
出入りしない



路上、公園など
集団飲酒等、感染リスクが
高い行動は控える



火から守る
目黒区消防団員
眞嶋章夫さん
こんな活動をしています
消防団は、地域に密着した非常勤消防員(特別地
方公務員)の団体です。消防署と連携して、消火活
動や災害時の救助活動等を行い、平常時は訓練を
重ねながら、住民向けに初期消火のやり方などを
教えていきます。

消防課
(☎5723-8700、㈹5723-8725)



ポンプ車を使っての訓練。短時間でホースをほどいて、放水の態勢を取ります

高齢者を守る
見守りボランティア
中島祥公子さん
こんな活動をしています
見守りを希望する65歳以上の一人暮らしや高齢
者のみの世帯のかたに対して、定期的に訪問や家
の外から状況確認することで、話し相手や安否
確認をするボランティア活動です。

圆福祉総合課地域ケア推進係
(☎5722-9385、㈹5722-9062)



担当のかたの自宅を訪問して、世間話をしながら、暮らしぶりに変化がないか確認します

めぐろを守るヒーローたちは 安心・安全を守る

地域のために働きたいと思い、
それを実現・実感できています



私は目黒で生まれ、育ちました。地域のために何か役立ちたいと、ずっと思っていました。ちょうど結婚をした頃に、知り合いの分団長から「消防団員にならないか」と説きました。不安もありましたが、地域のためになるならと決断しました。実際にやってみると、消防や救急など、まさに地域を守る仕事で、自分が望んでいたとおりでした。

消防団員をやって良かったと実感したのは、地元に知り合いが増えたことです。防災訓練やお祭りなどの活動を通じて、地元の知り合いがぐっと増えました。一緒に活動する団員たちも、いつもは別の仕事をしていますから、いろいろ話が聞けて楽しいです。

特に思い出に残っているのは、年1回行われる消防団ポンプ操作大会の選手に初めて選ばれたときです。大会に向けて消防ポンプの操作訓練を繰り返し、出場選手を決めます。重いホースを持って50mを全力で走るなど、これがかなりきつい訓練で、課題をクリアして選手に選ばれたときは、本当にうれしかったです。消防団員は選手になって初めて一人前といわれて、これで晴れて団の一員になれたと思いまし。

仕事との両立は、やはり難しいことに違いはないのですが、出動要請があつて行ける状況であれば、必ず行きます。この地域に暮らす消防団員として当たり前のことがあります。



消防団員募集中！ 詳細は4面へ

子育てと仕事をしながらでも、
地域のかたの力になればだと思います



以前から、何か人のため、地域のためにできることはできないかなと
思っていたのですが、子育て中で仕事もしているので、難しいと感じていました。

2年前、地域包括支援センターの職員と知り合い、地域福祉の大
変さを知りました。何かお手伝いできることはと尋ねたところ、見
守りボランティアがあると教えてもらったのがきっかけで始めまし
た。高齢者の自宅を訪問し、話をしたり、健康状態や暮らしぶりに
変わらないかを見守ったり、何か気になることがあったときは、
地域包括支援センターに連絡しています。

登録して担当になったのは、父親と同じ世代で、家事も1人でこ
なす、近所の優しい一人暮らしのかたでした。活動して特に良かった
ことは、年齢が違う縦の人間関係が築けたことだと思います。私
の子どもを連れて行くこともありますが、とてもかわいがっています。
今では子どもたちが、今度いつ行くのとせがむほどです。親
と離れて暮らしているので、私も子どもたちも、年齢が違う世代の
かたとつながりを持てたのはありがたく、逆に助けられていると感じる
こともあります。

人との会話や関係を持っていると、認知症の発症が遅れたり、進行を抑
止したりする効果があると聞きました。自分がやっている小さなことが、
少しでも人の役に立っていると思えることや、近所で互いに思いやる気
持ちでつながっている人がいることは、心豊かなことだと思っています。



見守りボランティア募集中！ 詳細は4面へ

子どもを守る
主任児童委員
高橋晶子さん
こんな活動をしています
主任児童委員は、児童福祉に関する事を専門的
に担当し、子ども家庭支援センターや児童相談所・
学校・児童館などと連携して、子どもの健全育成活動・
子育て支援活動をサポートしています。現在区内では、
20人のかたが活躍中です。

圆子ども家庭支援センター事業係
(☎5722-6836、㈹5722-9684)



子育ての相談に耳を傾け、解決の方法を探ります

犯罪から守る
生活安全パトロール
亀山修さん
こんな活動をしています
地域の防犯と子どもの安全を守るために、青色回
転灯のパトロールカー(通称、青バト)で24時間
365日、区内を巡回しています。警察や生活安全
課と毎日連絡・連携を取り、危険箇所の把握など、
地域防犯の一役を担っています。

圆生活安全課
(☎5722-9667、㈹5722-9409)



総合庁舎から、青バトに乗って、2人一組でパトロールに出掛けます

縁の下の力持ち

子どもたちの未来が、
少しでも明るいものでありますように



地元の小学校のPTA副会長を務めたご縁で、住区からの推薦を受
けて、19年前に主任児童委員になりました。

主な活動は、子ども家庭支援センターや児童相談所からの依頼を
受けて、子どもたちの見守りをすることです。学校・関係機関だけ
では対応できない長期休暇中や夜間などの子どもたちの安否確認を、
できる範囲で行います。子どもの虐待、いじめ、ひきこもりの解決
には、地域で、複数の目で子どもたちを見守ることが必要です。

また、子どもたちの声を聞く工夫として、児童館にふれあいボックス「くろめちゃん」を設置しています。子どもたちから困っている
こと、楽しかったことなど、何でも書いて投稿してもらう相談箱で
す。ときには、答えづらい質問やいたずら書きなどもありますが、
すべての投書に必ず返事を書いて対応しています。「くろめちゃん」
に相談してくれたことを無視していない、ちゃんと見ているよ、と
子どもたちに感じてほしいからです。

ボランティアとしての活動は、守秘義務の徹底や気を遣う任務な
ど大変な面もありますが、一人ひとりの子どもたちがそれぞれに明
るい未来をつくってほしいと願い、活動しています。



▶ヒヨコのキャラクターが目印の
ふれあいボックス「くろめちゃん」には、子
どもたちから寄せられた相談が入
っています

子どもたちの安全を第一にして、
地域防犯に努めています



区の委託を受けた警備会社で、この仕事に就いて3年目になります。パトロールのルートはその都度変わりますが、朝7時に仕事が
始まり、小学生が登校する通学路などで、車から降りて子どもたちの安全確保をします。子どもたちが元気に「おはようございます」と
あいさつしてくれるのが、とてもうれしいです。

それが終わると警察署で、防犯重点箇所の相談や指導などを受け、
区の生活安全課へ行き、パトロール計画に沿って、車で区内を巡回
します。主な警戒先は、小学校、幼稚園、保育園、学童保育クラブ、
区立公園など。もしも、不審者や迷惑行為、犯罪などを見つけた場合
には、すぐに警察へ通報します。

私たちのパトロールは犯罪の発生を未然に防ぐことを目的として
います。そのため、常に人の目があることを知らせる「見せるパト
ロール」を実施することで、犯罪を抑止するんだという思いで巡回
しています。私の任務は午後3時に終了しますが、パトロールは
24時間、夜中も行っています。

小さな異変を見つけ連絡すること、それが私の役割です。できる
ことは限られていますが、毎日の安全が守られるように、毎日同じ
小さな確認を積み重ねています。



▶大きく防犯と書かれた緑
色の帽子と蛍光色のベス
トと腕章が必要品。不審
者などがいないか、目を
光らせます